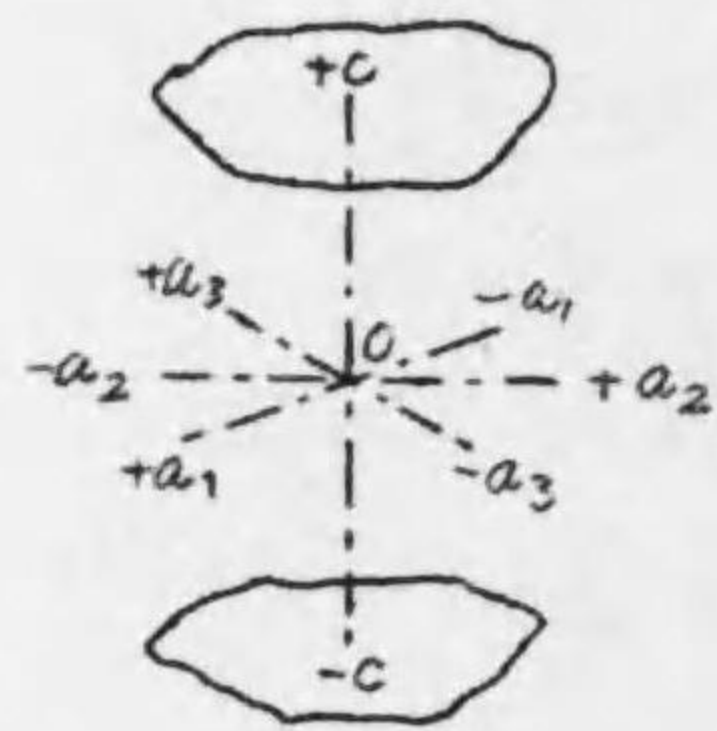


二六方錐の各面が主軸と平行となつた場合、即ち
 $m = \infty, n = 2$, である。故其軸率記号は W.氏
 $\dots 2a_1 : 2a_2 : -a_3 : \infty c$, N.氏 $\dots \infty P_2$,
 M.氏 $\dots \{11\bar{2}0\}$ 。

7) 六方底 Basal pinacoid or Base. (296 図)

(296)

六方底



構成 \dots 296 図の如く主軸の両側を切る卓面で 2
 面より成る閉形である。

軸率記号 \dots 主軸を切り側軸 3 々に平行する。故
 に其軸率記号は W.氏 $\dots \infty a_1 : \infty a_2 : -\infty a_3 :$
 c , N.氏 $\dots 0P$, M.氏 $\dots \{0001\}$, 但し $m = 1,$
 $n = \infty = 0$ 。

ii) 極形及聚形 (297 ~ 302 図)

a) 極形 (極限の形) (297 図) 六方晶系の種々の形の
 極形は次表の如くである。複六方錐及複六方柱に於
 て K の値が増加し k の値に接近するに従ひ、錐面又
 は柱面の成す角は 2 直角に近くなり、 K の値が k の

値に等しくなれば面角は 180° となる。即ち 0 と
 なり第一六方錐及第二六方柱を生ずる。 K の値が減
 少して k の $1/2$ となる時は k の値も亦変化して第二
 六方錐又は第二六方柱となる。其關係を次表に示す。

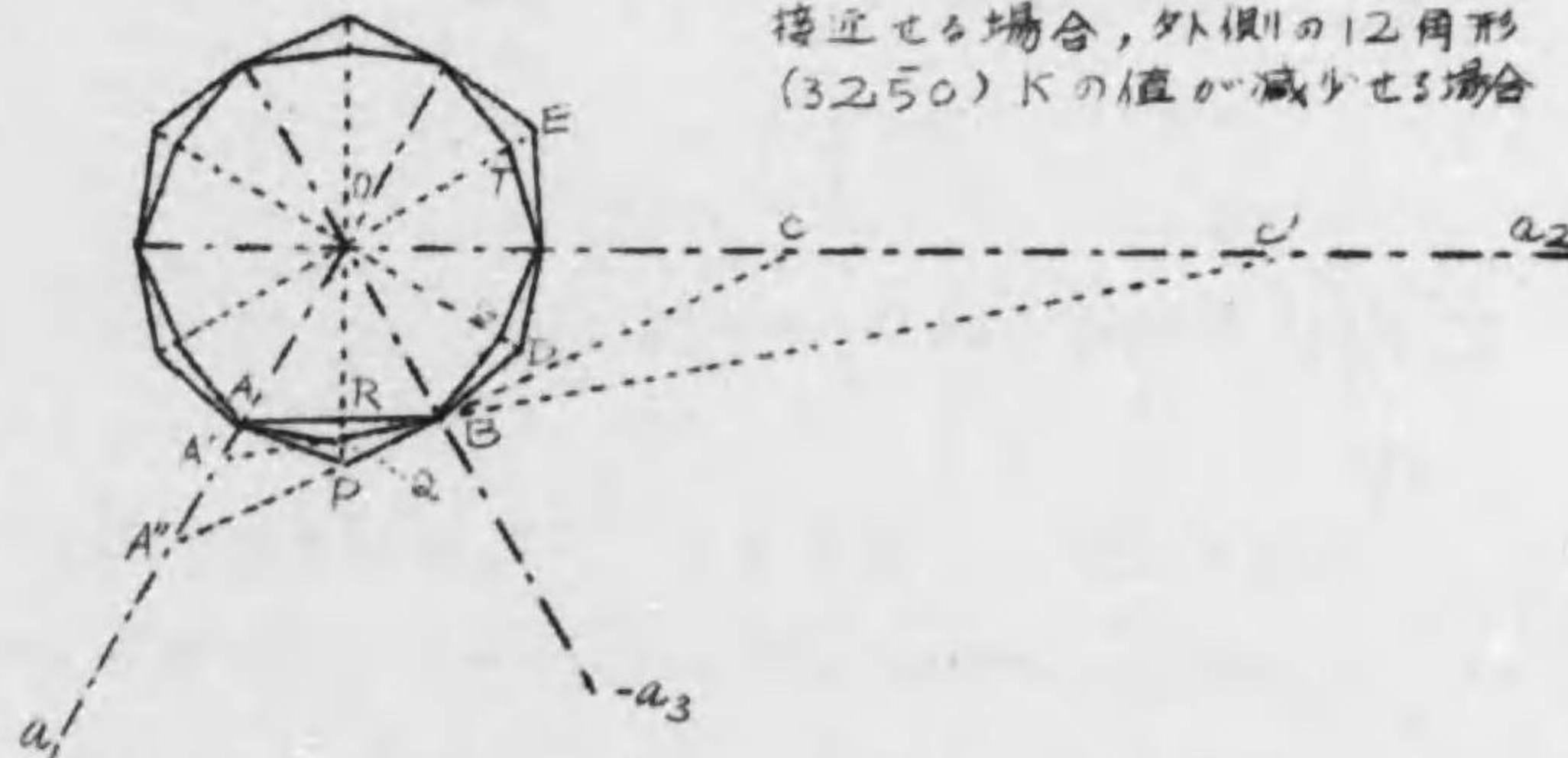
0001

$(k) \bar{k} l \leftarrow (K) \bar{k} l \rightarrow (K) k l$

$(10\bar{1}0) \leftarrow (K) \bar{k} 0 \rightarrow (11\bar{2}0)$

$0P$	\dots	$0P$	\dots	$0P$	} 底面
$\frac{1}{n}P$	\dots	$\frac{1}{n}P_n$	\dots	$\frac{1}{n}P_2$	
P	\dots	P_n	\dots	P_2	} 錐面
mP	\dots	mP_n	\dots	mP_2	
∞P	\dots	∞P_n	\dots	P_2	} 柱面

(297) 各面の極形關係圖 内側の 12
 角形 (5180) K の値が k の値に
 接近せる場合, 外側の 12 角形
 (3250) K の値が減少せる場合



b) 聚形(299~302図参照) 以上7ヶの單形面は種々に聚合して聚形を成して産出する(上記の7ヶの完面像單形の中で3種の柱面と底面とは同形故必が異形を成して出現す)。聚形鉱物の主なる物及其形態は次の如くである。

- 1) 鋼玉石(298図)--- OP (底面)+ ∞P (第一六方柱面)
- 2) 水晶1種(299図)--- mP (第一六方柱面)+ ∞P (第一六方柱面)
- 3) 綠柱石(300図)--- C (底面), OP , p (第一六方柱), mP , 1011 , S (第二六方柱), mP_2 , $11\bar{2}1$, m (第一六方柱), ∞P , $10\bar{1}0$ --- $Be_3Al_2Si_6O_{18}$, 綠色者を *Emerald*, 青藍色者を *Aquamarine*, 總各を *Beryl* と云ふ。
- 4) 水晶1種(301図)--- p (第二六方柱), mP_2 , u (單位六方柱 P)
- 5) 綠柱石(302図)--- C (底面), OP , S (第二六方柱), mP_2 , O (單位六方柱, P), m (第一六方柱, ∞P)。
- 6) 燐灰石--- $mP + \infty P$

(II) 完面異極像晶族 *Holohedral hemimorphic class*

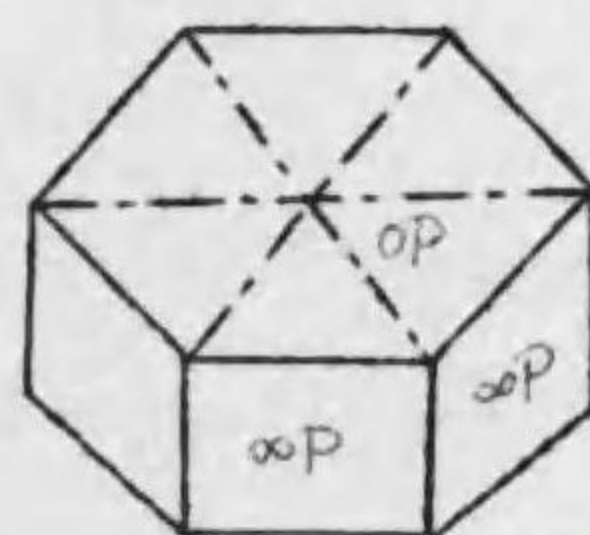
i) 対稱の要素 本品族が(I)完面像晶族と異なる点は主対稱面と側軸面に横はる6ヶの2面対稱軸及対稱点を缺くことにある。

ii) 結晶形の種類 本品族に属する結晶形及其記号は次に示す如くである。

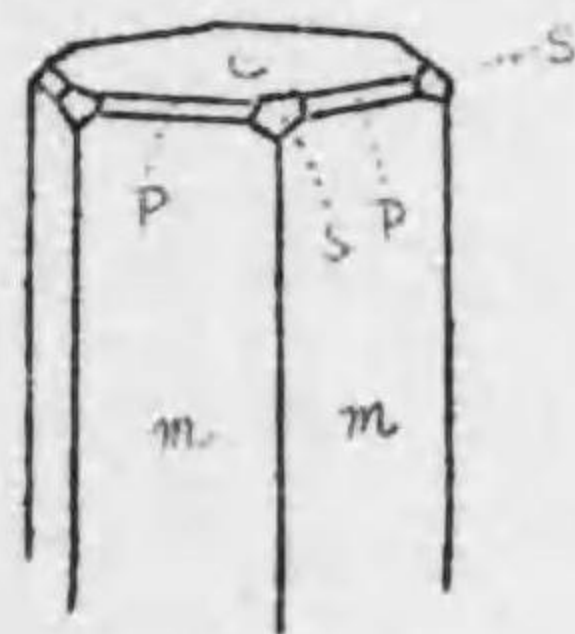
1. 上部複六方錐 $\{Ki\bar{h}l\}$ 下部複六方錐 $\{Ki\bar{h}\bar{l}\}$
各12面より成る。
2. 上部第一六方錐 $\{h0\bar{h}l\}$ 下部第一六方錐 $\{h0\bar{h}\bar{l}\}$
各6面より成る。
3. 上部第二六方錐 $\{Kk\bar{h}l\}$ 下部第二六方錐 $\{Kk\bar{h}\bar{l}\}$
各6面より成る。

以上の外に柱及底もある。

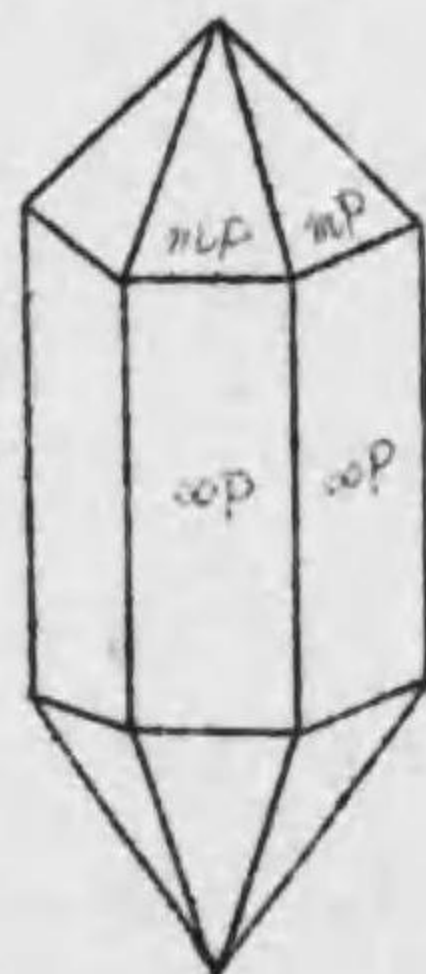
(298) 鋼玉石



(300) 綠柱石



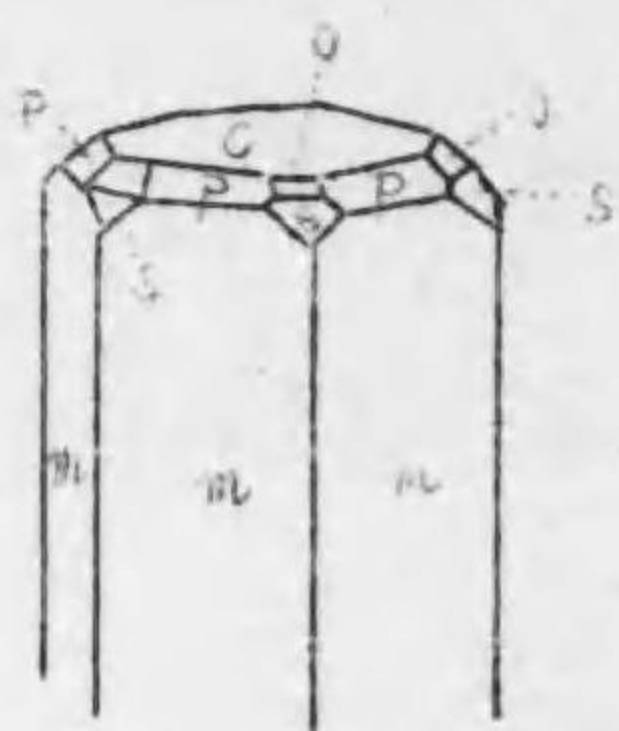
(299) 水晶1種



(301) 水晶1種



(302) 綠柱石



(III) 錐形半面像晶族 *Pyramidal hemihedral class.*

i) 總説

1) 対稱の要素……本晶族には三対稱面1ヶ, 6面対稱軸1ヶ, 及対稱点を有する。

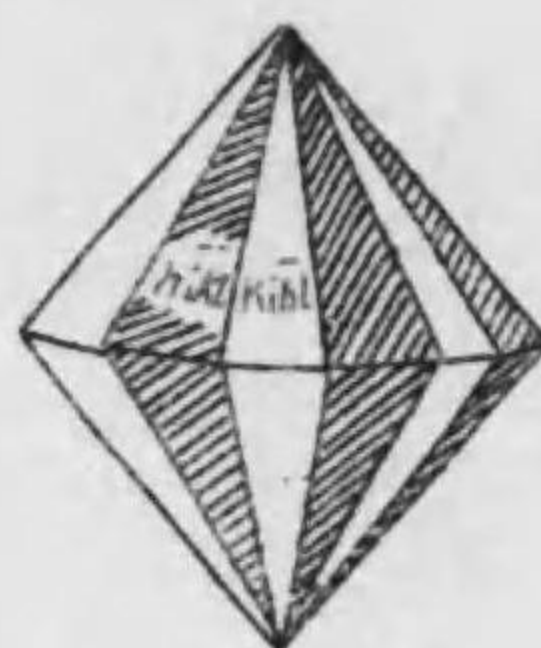
2) 完面像よりの誘導法 本晶族の半面像を完面像より誘導するには1ヶの主対稱面と6ヶの副対稱面(対稱の項及図参照)とに依り区別された区にある面を上下一対宛交互に発達せしめ, 其他の面を消失せしむれば生ずる(303, 306 図参照)。

ii) 單形各説 次の2種(各三頁)あり。

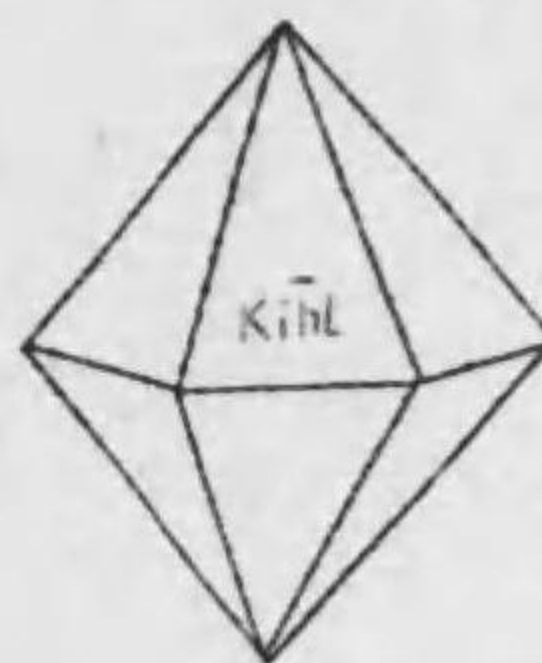
1) 第三六方錐 *Hexagonal pyramid of the third order.* (303~305 図)

構成……303 図の如く複六方錐(mPn)に上述の方法を施せば正・負2ヶの第三六方錐(304及305 図)を生ずる, 本形は12 錐面より成る閉形である。

(303) 誘導体



(304) 第三六方錐(正形)



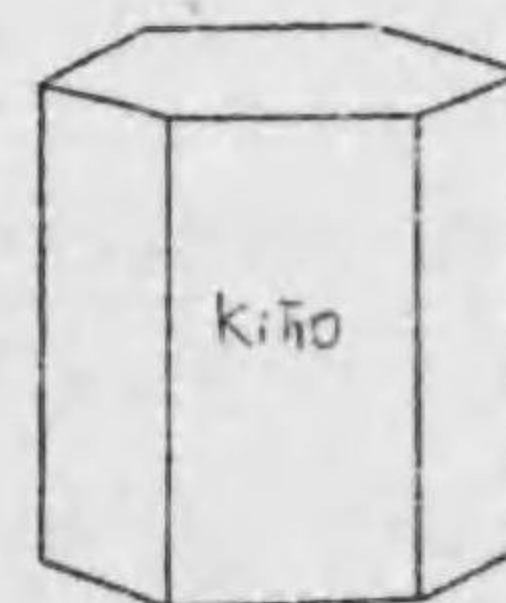
(305) 第三六方錐(負形)



軸率記号……本形の外形は第一及第二六方錐と同様なるも, 309 図の III に示す如く各面の側軸に対する關係は前二者(I 及 II)の何れとも異なる。軸率記号は……N.氏…… $\pm \frac{mPn}{2}$; M.氏……正 $\pi\{Ki\bar{K}l\}$, 負 $\pi\{h\bar{i}Kl\}$ 。

2) 第三六方柱 *Hexagonal prism of the third order* (306~308 図参照)

(306) 誘導体



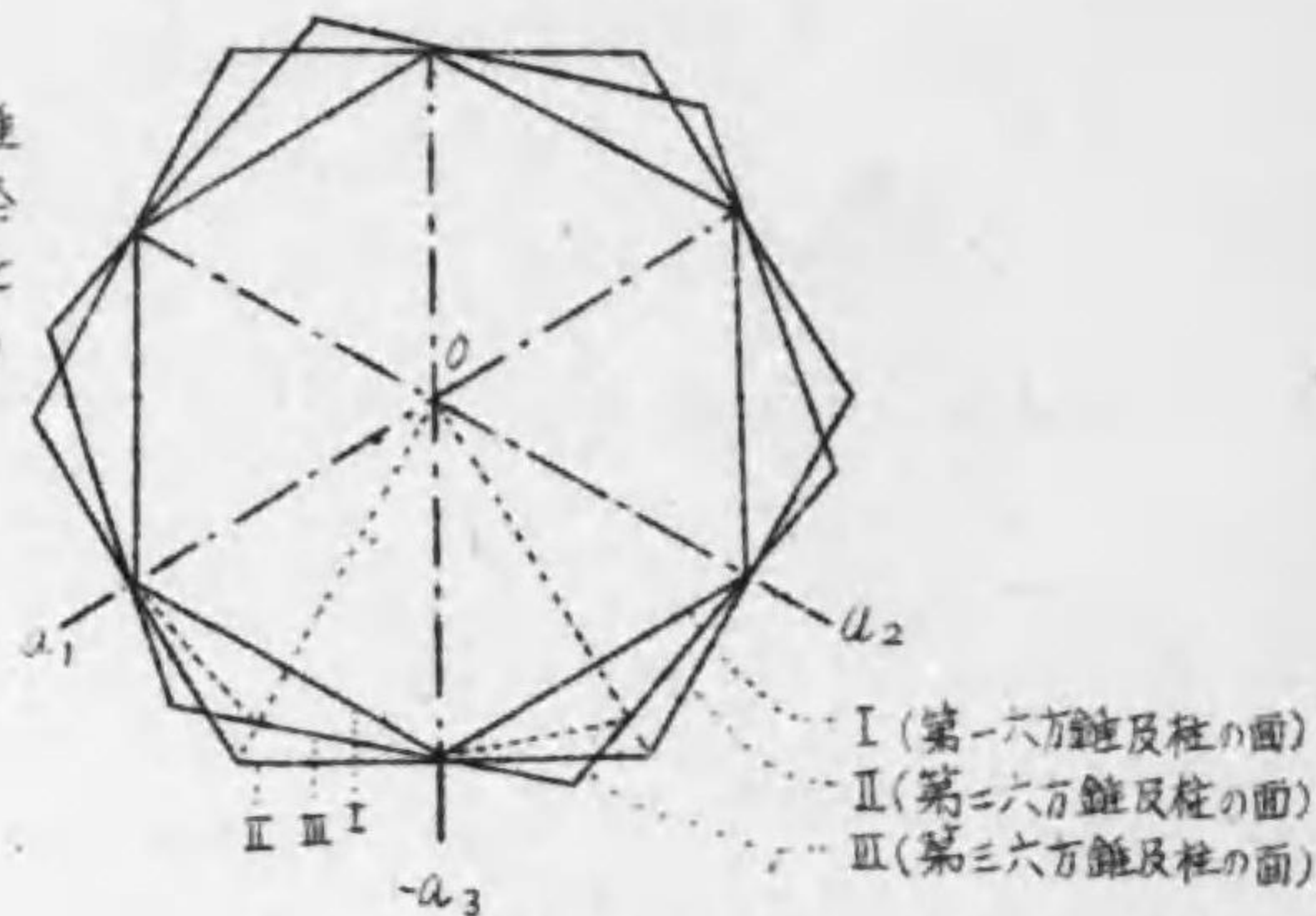
(307) 第三六方柱(正形)

(308) 第三六方柱(負形)



(309)

第一,二,三六方錐
及柱の側面図に於
ける横断面(面と
軸との關係を示す)



構成……306図の如く複大方柱(∞P_n)に同様の方
法を施せば, 307及308図の如く正角2ヶの第三六
方柱を生ずる, 是は6ヶの柱面より成る角形である。
軸率・記号……本形の外觀は第一及第二六方柱に同
じきも, 309図のIIIに示す如く各面に側軸に対する
關係は前2者(I及II)の何れとも異なる。軸率記号は
……N.氏…… $\pm \frac{\infty P_n}{2}$; M.氏…… $\pm \pi \{K i \bar{h} 0\}$,
真 $\pi \{h i K 0\}$ 。

iii) 聚形 本晶族の聚形鉱物は次の如し。

1) 磷灰石 Apatite…… $(CaF)(Ca_4(PO_4)_3)$ ……足尾産

(IV) 錐形異極像晶族 *Pyramidal hemimorphic class.*

i) 対稱の要素 唯1ヶの6回対稱軸を有するのみである。

ii) 結晶形 本晶族の結晶形は次の如くである。

1. 上部第一六方錐 下部第一六方錐

- 2. 上部第二六方錐 下部第二六方錐
- 3. 正上部第三六方錐 正下部第三六方錐
真上部第三六方錐 真下部第三六方錐
- 4. 上底 下底

(V) 偏形半面像晶族 *Trapezohedral Hemihedral class.*

i) 總説(310~312図参照)

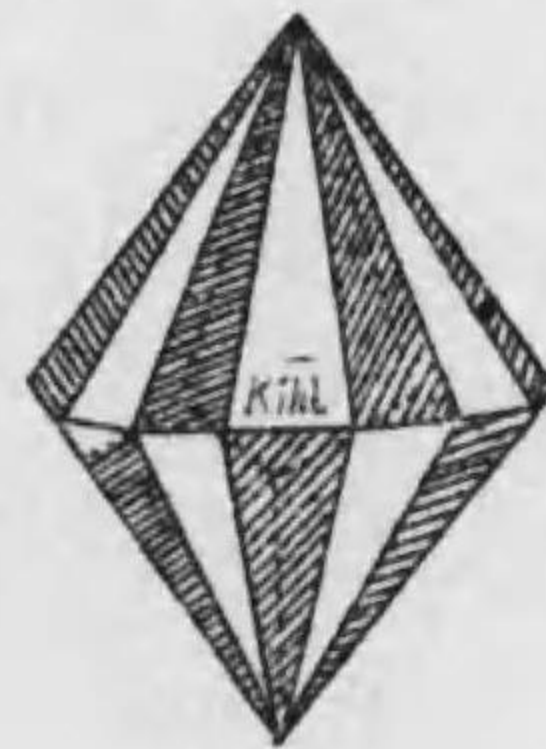
1) 対稱の要素 1ヶの6回対稱軸と之に垂直の方向に
ある6ヶの副対稱軸とを有し, 対稱面及対稱点が無
い。

2) 完面像よりの誘導法 完面像の7ヶの対稱面に依り
区劃された区にある面を310図の如く上下交互に取
て発達せしめ, 他を消失せしめて生ずる。

ii) 單形各説 次の1種左右2形がある。

(310) 誘導体

(312) 六方偏方体(正形)



(311)
六方偏方体(正形)



1) 六方偏方体 *Hexagonal trapezohedron* (310~312 図参照)

構成……310 図の如く複六方錐 (mPn) に上述の方法を施せば 311 及 312 図の如き左右両形の六方偏方体を生ずる。

軸率・記号……*M.氏* ……右, $\frac{mPn}{2} r$, 左, $\frac{mPn}{2} l$;
M.氏 ……右, $T\{K\bar{i}h\bar{l}\}$; 左, $T\{h\bar{i}K\bar{l}\}$ 。

(VI) 菱形半面像晶族 *Rhombohedral hemihedral class* (313~329 図参照)

i) 総説

1) 対稱の要素 上下軸と側軸とを含む 3 ヶの副対稱面と、上下の方向にある 1 ヶの 3 面対稱軸と中間軸の方向にある 3 ヶの 2 面対稱軸及対稱点を有する。

2) 完面像よりの誘導法 313 及 318 図の如く完面像に於て主対稱面と 3 ヶの副対稱面とを以て境されたる区域、即 12 分区に現はる、面を上下交互に取て発達せしめ、他の面を消失せしめて生ずる。

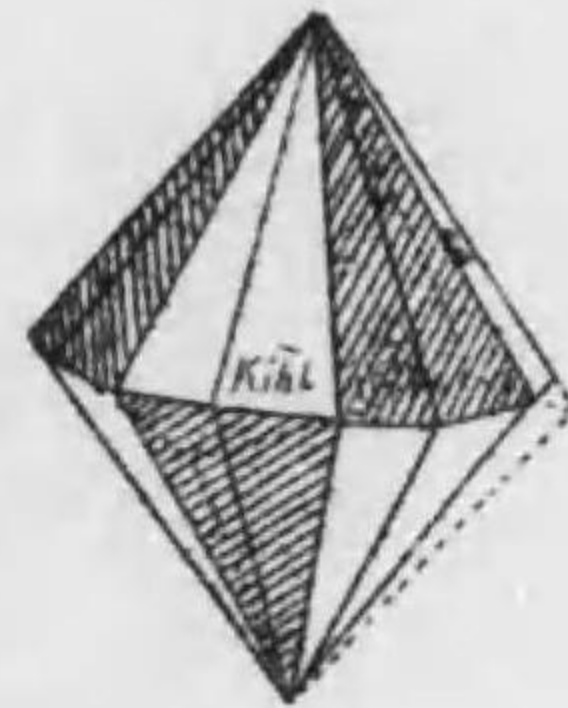
ii) 單形各説 次の 2 種正負 4 形がある。

1) 六方偏三角面体 *Hexagonal scalenohedron* (313~316 図参照)

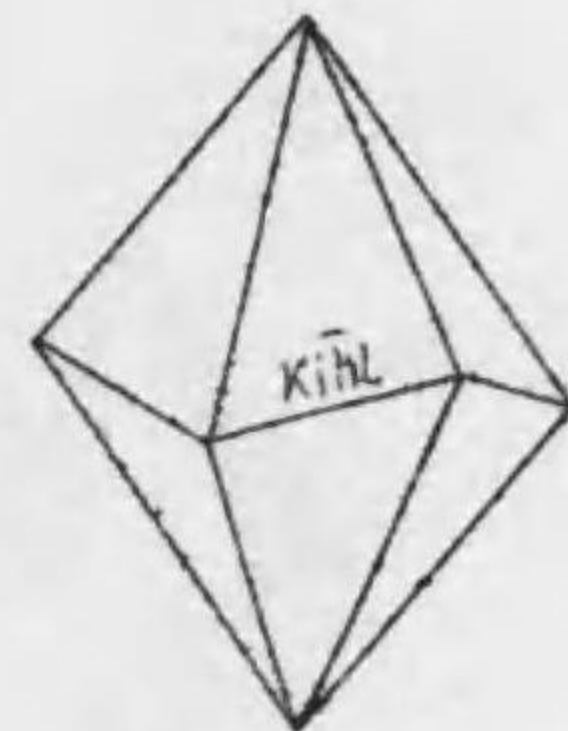
構成……313 図の如く複六方錐 (mPn) に上述の方法を施せば正負 2 ヶの六方偏三角面体を生ずる、是は不等辺三角形の錐面 12 ヶより成る閉形で、6 ヶの

側稜は雁木狀を成し、其長さは相等しい (313~316 図)、而して側軸は側稜の中点を通る。

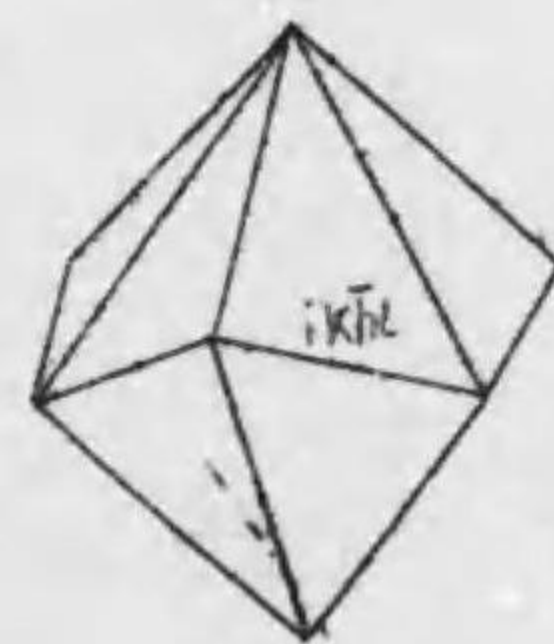
(313) 誘導体



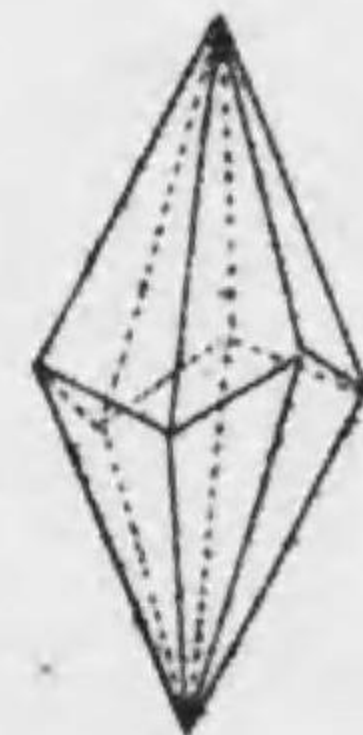
(314) 六方偏三角面体(正)



(315) 六方偏三角面体(負)



(316) 全(正形)

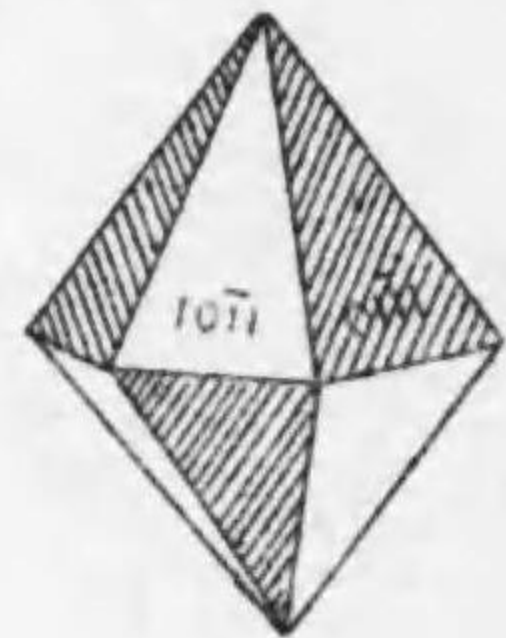


軸率・記号……*M.氏* …… $\pm \frac{mPn}{2}$; *M.氏* ……正, $K\{K\bar{i}h\bar{l}\}$,
 負, $K\{iK\bar{h}\bar{l}\}$ 。

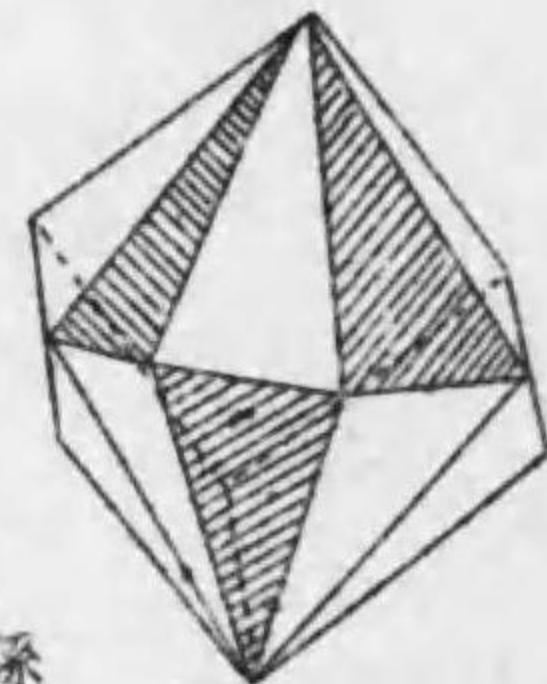
2) 斜方六面体又菱面体 *Hexagonal rhombohedral* (317~322 図参照)

構成……318図の如く第一六方錐(mP, 317図)に同様の方法を施せば320~321図の如き正負2ヶの菱面体(斜方六面体)を生ずる, 是は6ヶの菱面より成り極稜側稜共に6ヶありて各其長さは其等しい。

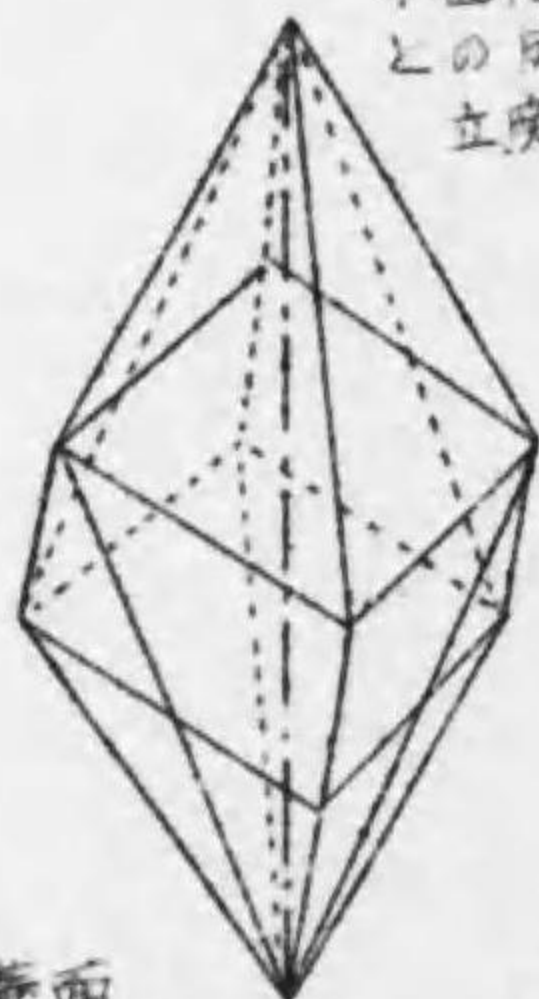
(317) 第一六方錐及誘導面



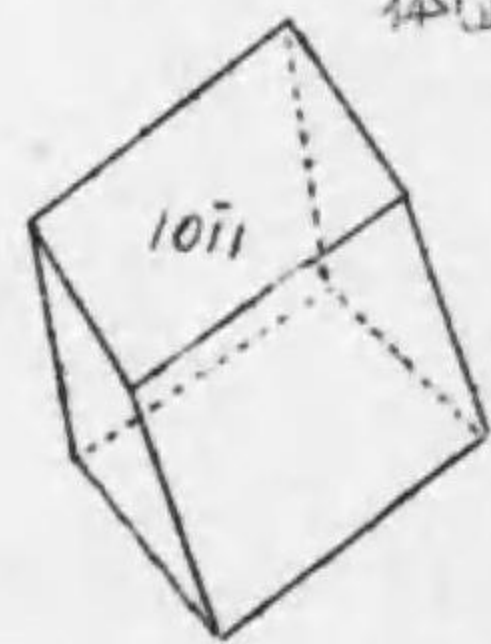
(318) 誘導体



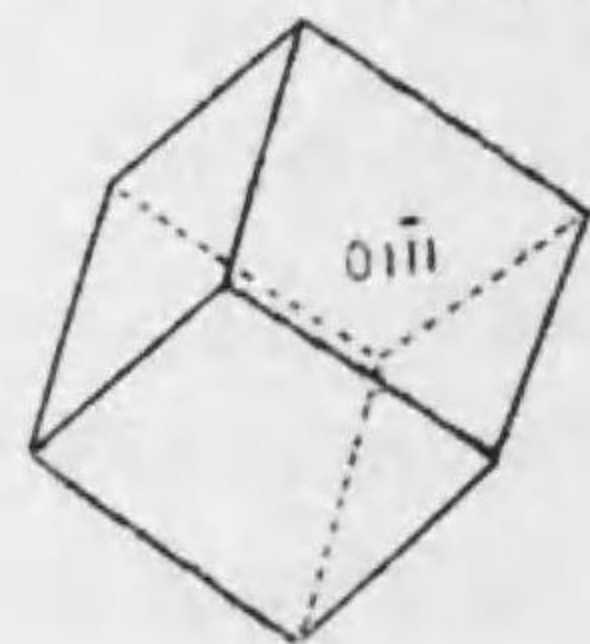
(319) 完面像と半面像との成立関係



(320) 斜方六面体一名菱面体(正形)

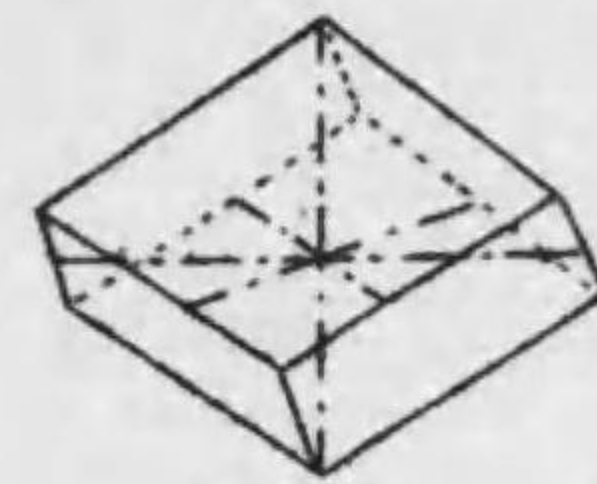


(321) 斜方六面体一名菱面体(異形)



(322)

斜方六面体(方解石)の軸と面との関係を示す



軸率・記号……N.氏…… $\pm \frac{mP}{2}$ 又は $\pm mR$; M.氏……

正, $K\{h0\bar{h}l\}$, 負, $K\{0h\bar{h}l\}$

註:—斜方六面体(特別の場合に各面角は90°となり……立方体 $\infty 0 \infty$ ……となる)をRにて表す。

$R = +R$ ……でPより導かれたる正号の斜方六面体である, 即…… $R = +\frac{P}{2}$ ……である。従つて $-\infty R$ は $\infty \frac{P}{2}$ より来り, 故に一般に…… $\pm \frac{mP}{2} = \pm mR$ ……である。

iii) 聚形(323~324図参照) 本晶形の聚形を成す鉱物は次の如くである。

1) 方解石 Calcite…… CaCO_3 (大理石, 石灰岩等を成る鉱物)(324~328図)

ℓ = 眞菱面体の面(0112)

m = 第一六方柱の面(10 $\bar{1}$ 0)

b = 第二六方柱の面(1120)

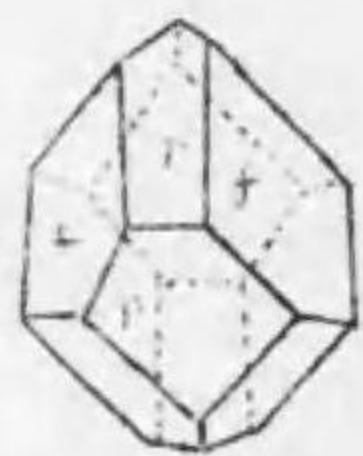
r = 正菱面体の面(10 $\bar{1}$ 1)

v = 正六方偏三角面体の面(21 $\bar{3}$ 1)

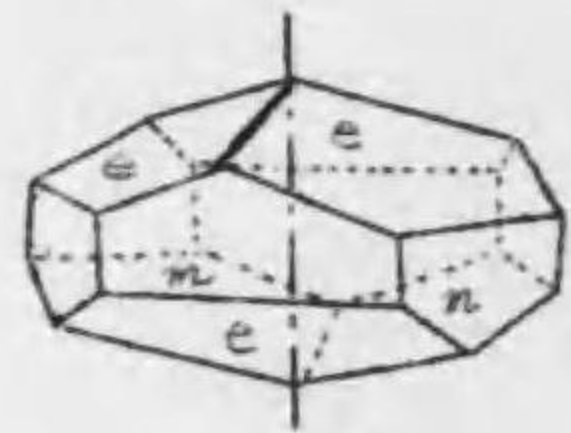
n = 全と(41 $\bar{5}$ 3)

- 2) 赤鉄鉱 Hematite Fe_2O_3 鉄の鉱石(岩手縣, 仙人鉱山)(323図)
- 3) 菱鉄鉱 Siderite $FeCO_3$
- 4) 剛玉 Corundum Al_2O_3
- 5) 菱苦土鉱 Magnesite $MgCO_3$
- 6) 自然砒 Native Arsenic As
- 7) 自然銻鉛 Native Bismuth Bi

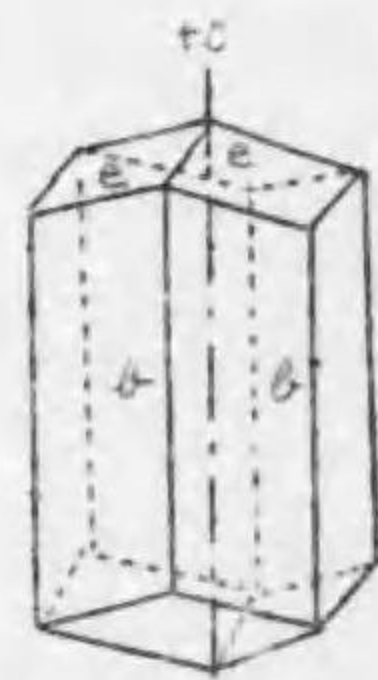
(323) 赤鉄鉱



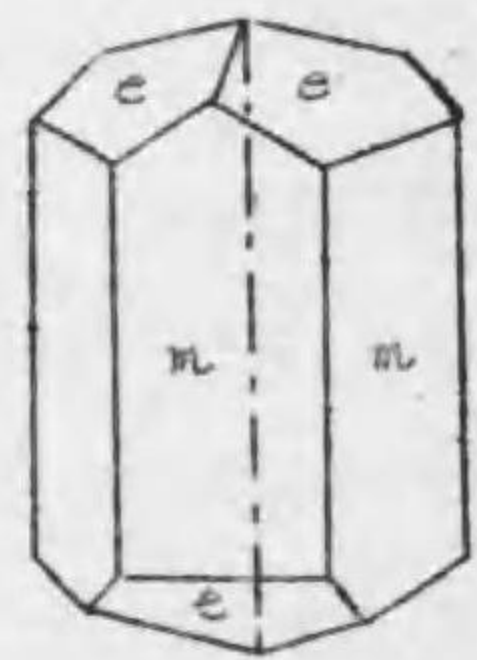
(324) 方解石



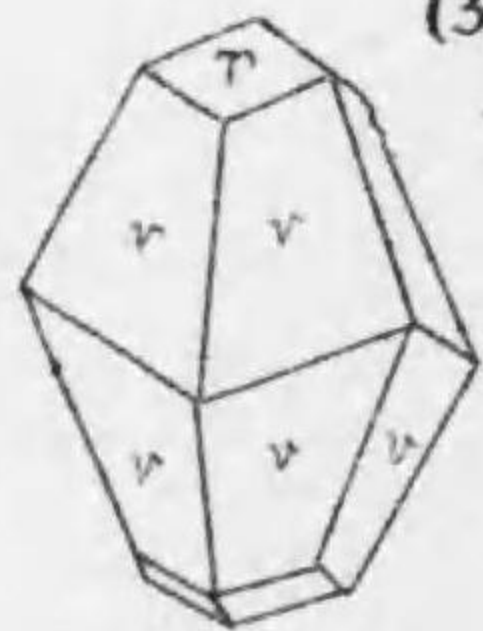
(325) 方解石



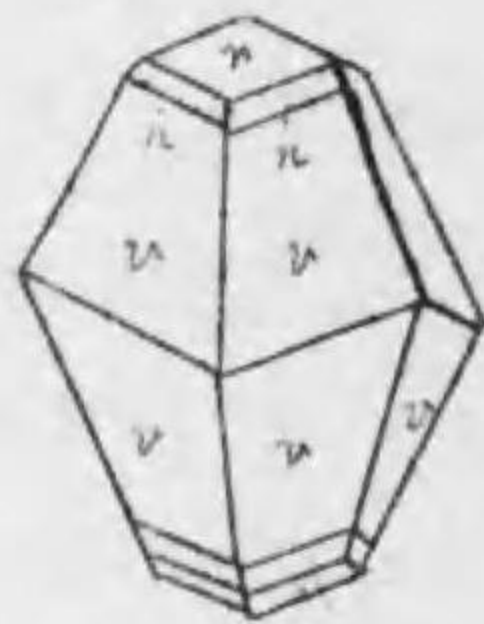
(326) 方解石



(327) 方解石



(328) 方解石



(329) 方解石



(VII) 三角半面像晶族 Trigonal hemihedral class.

(330~342 図参照)

i) 總説

1) 対稱の要素 対稱面は4ヶありて其中1ヶは主対稱面を水平位にある, 他の3ヶは副対稱面を夫々上下軸と中間軸とを含む面である。1ヶの主対稱軸(3回対稱軸)は主対稱面に直角の方向に在る, 而して3ヶの対稱軸(2回対稱軸)は3回対稱軸と直角の方向に在る。対稱点も存在する。

2) 完面像よりの誘導法 330, 333, 336, 339 図に示す如く完面像に於て十二分区に現はる、面を上下1対宛1組とし、之を交互に発達せしめ、他面を消失せしむれば生ずる。

ii) 單形各説(330~342 図参照) 次の4種正角2形宛, 計8形態を有する。

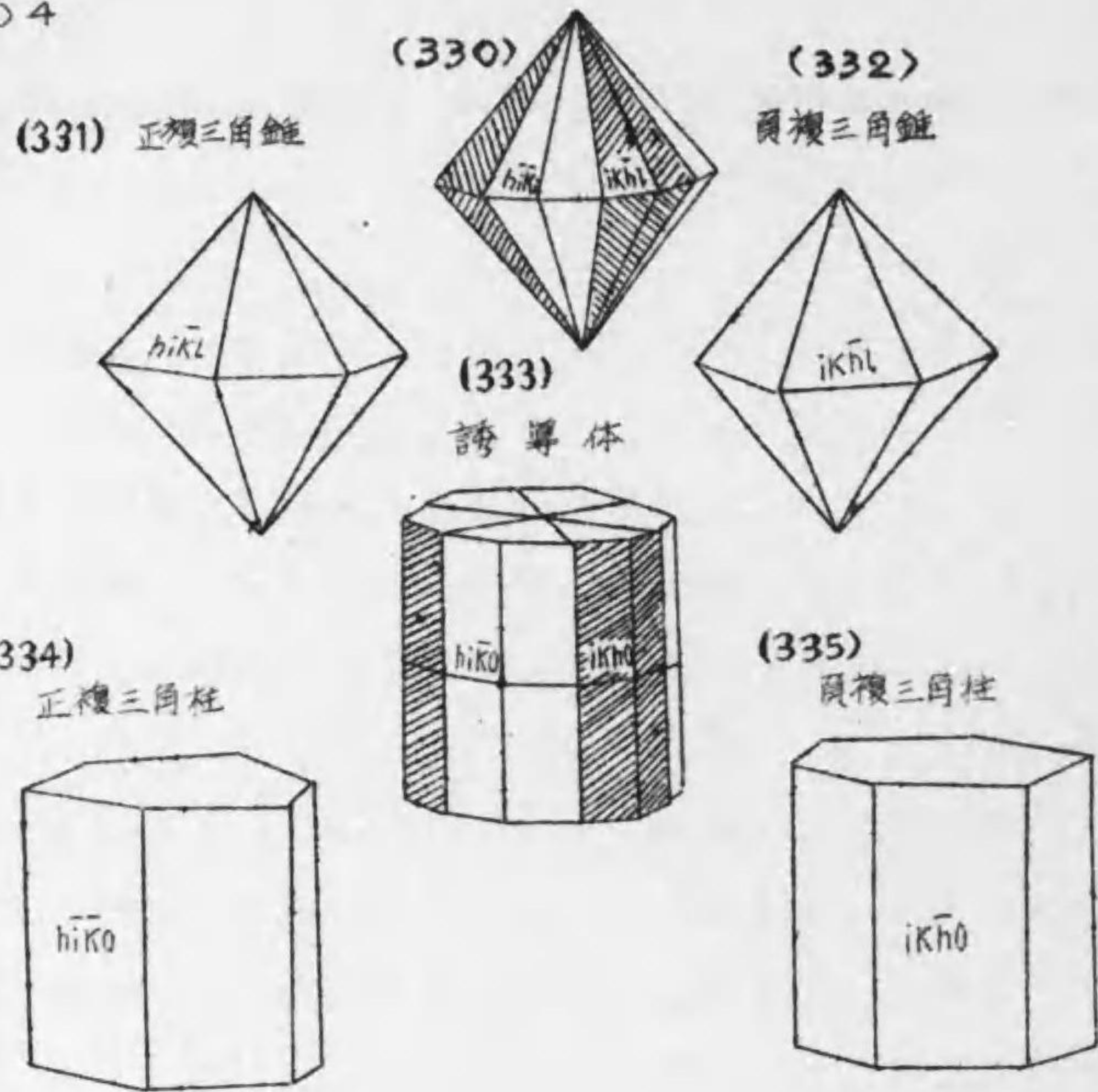
1) 複三角錐 Ditrigonal pyramid (330~332 図)

構成……230 図の如く複六方錐(mPn)に上述の方法を施せば正角2形の複三角錐を生ずる, 共に不等辺三角形の鈍面12ヶより成る。

軸率・記号……M. R. $\pm \frac{mPn}{2}$; M. R. ……正 $\{h\bar{k}l\}$

2) 複三角柱(一名第一複三角柱) Ditrigonal prism. (333~335 図)

構成……333 図の如く複六方柱(∞Pn)に同様の



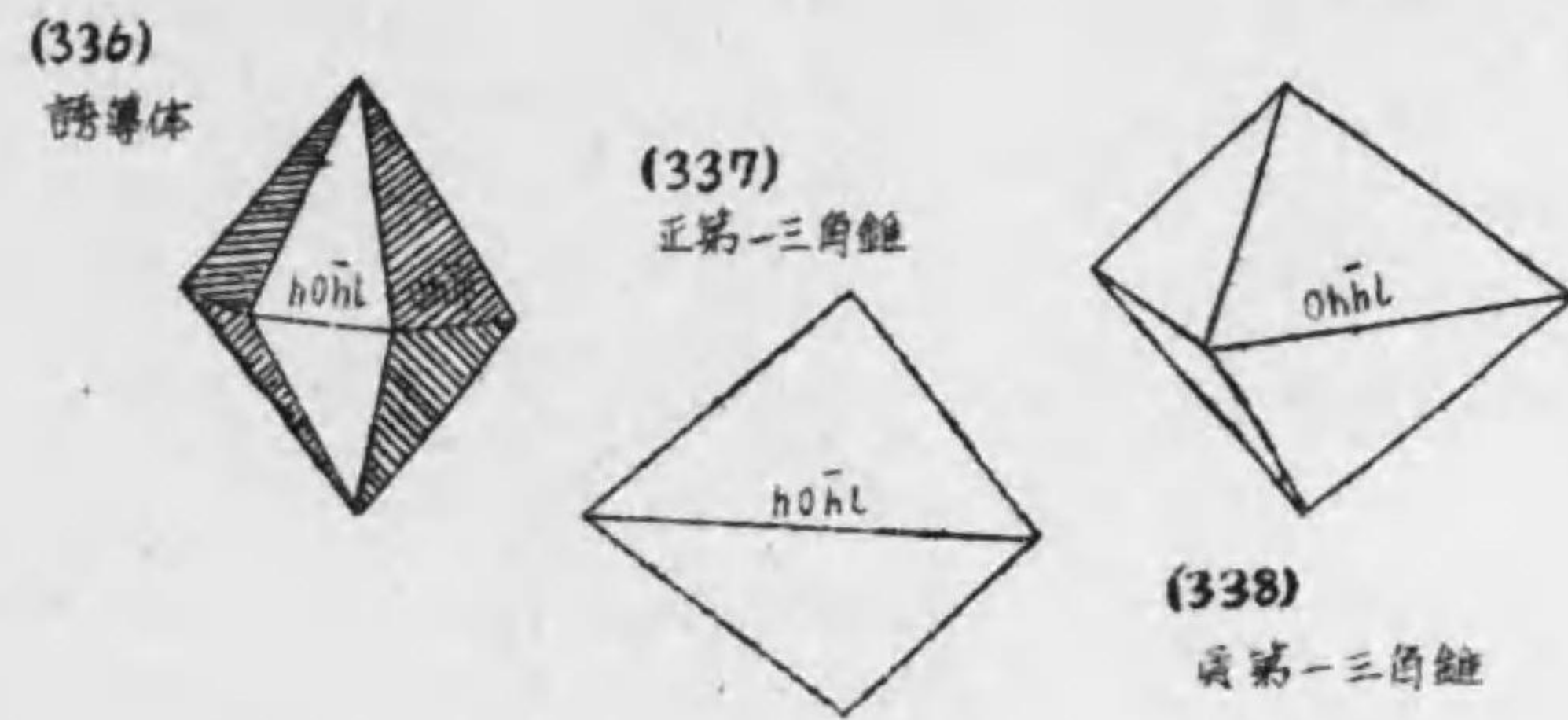
方法を施せば正負2ヶの複三角柱を生ずる、之は6ヶの柱面より成る閉形である。

軸率・記号……N.氏…… $\pm \frac{\infty P_n}{2}$; M.氏……正{hīk̄o}, 負{ikl̄h}

3) 第一三角錐 *Trigonal pyramid of the first order* (336~338図)

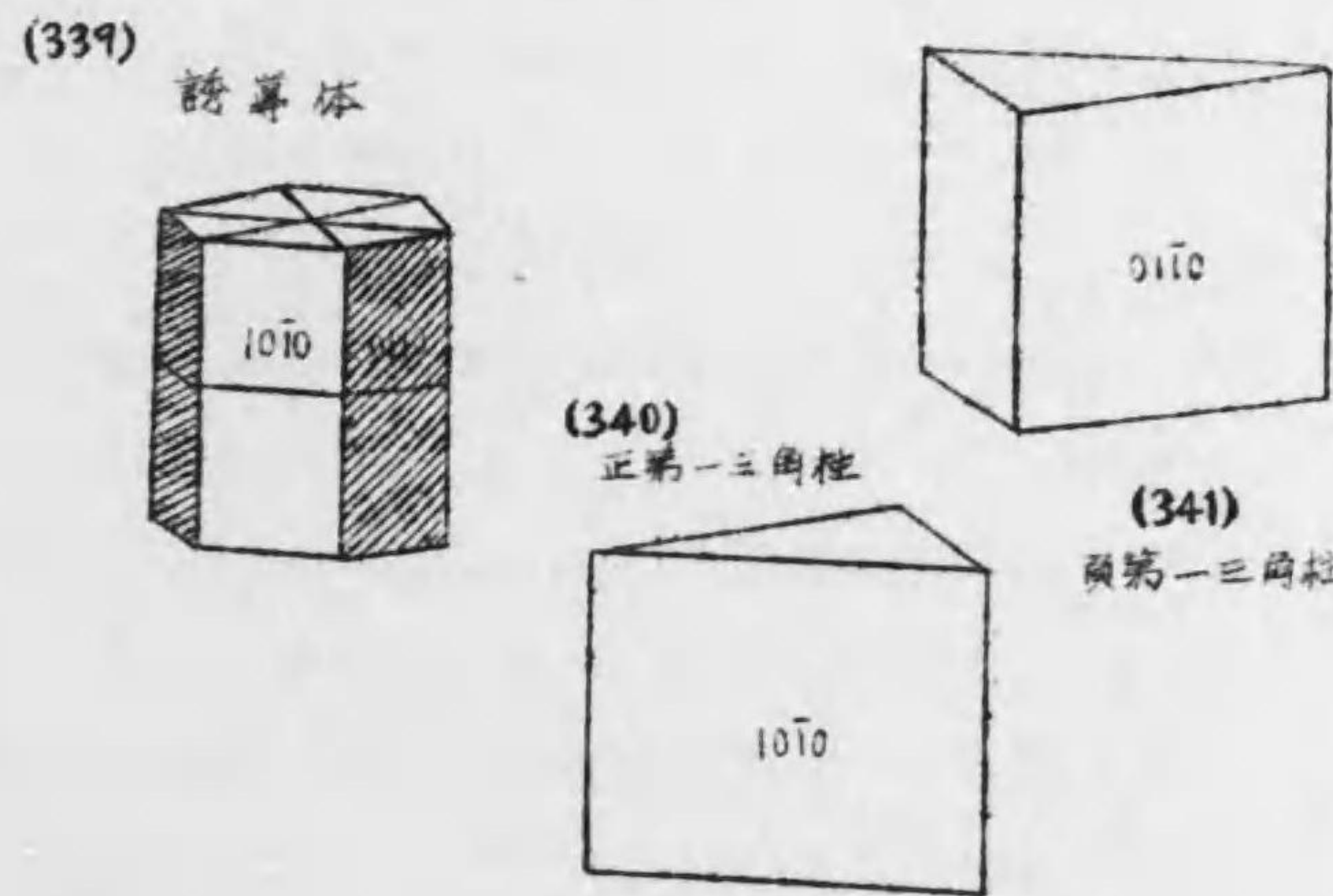
構成……336図の如く第一六方錐に同様の方法を施せば正負2ヶの第一三角錐を生ずる、之は三角形の錐面6ヶより成る(閉形)。

軸率・記号……N.氏…… $\pm \frac{mP}{2}$; M.氏……正{hōhl},



負, {ohhl}.

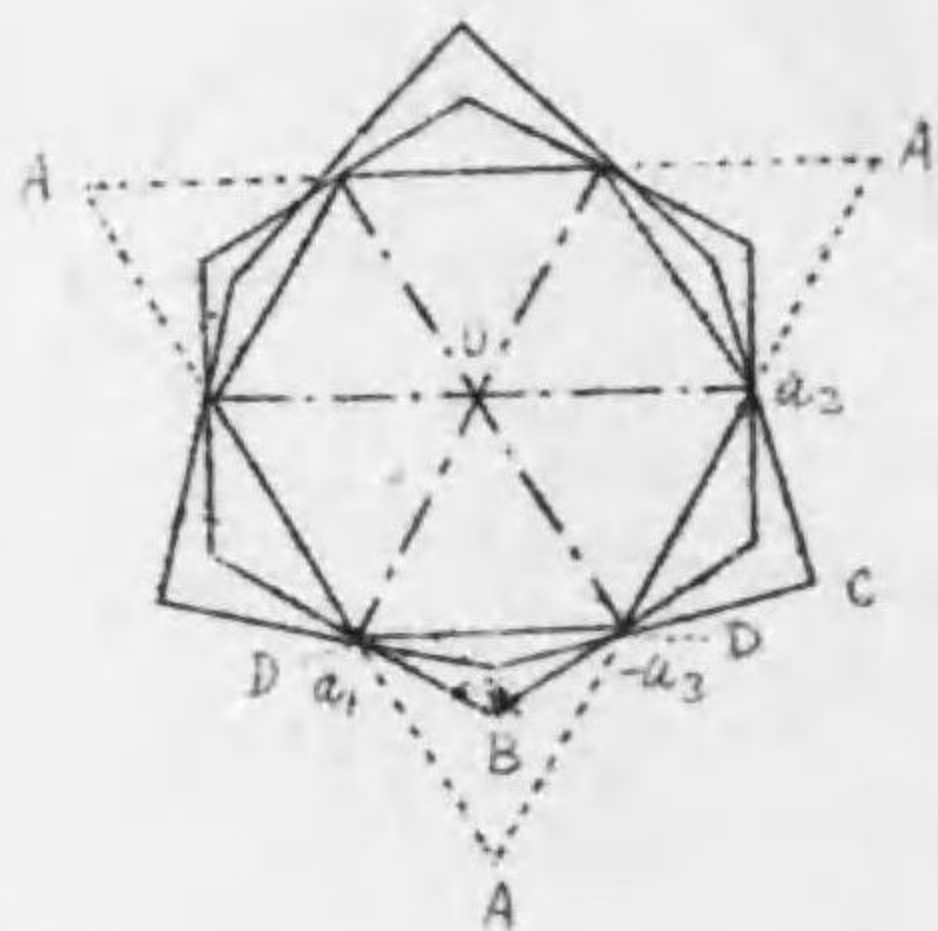
4) 第一三角柱 *Trigonal prism of the first order* (339~341図参照)



構成……339図の如く第一六方柱(∞P)より導き得る。是には正負2形(340及341図)あつて、各形は3ヶの柱面より成る閉形である。

軸率・記号……M.氏…… $\pm \frac{\infty P}{2}$; M.氏……正 $\{10\bar{1}0\}$,
 頁, $\{01\bar{1}0\}$,

(342)



342 図説明:—(342) 図は第一及第二六方柱, 複三角柱, 第一三角柱の面が3ヶの側軸 ($a_1, a_2, -a_3$) と如何なる関係にあるかを示したものである。此晶族に結晶する鉱物は (1) Benitoite $BaTiSi_3O_9$ である。

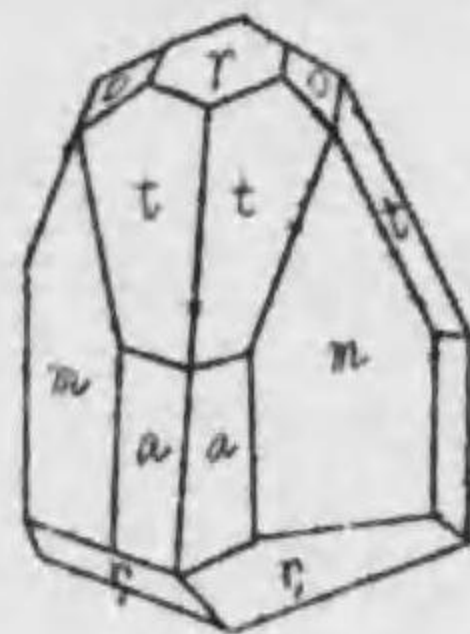
(VIII) 三角半面異極像晶族 *Trigonal hemihedral hemimorphic class.* (343~344 図参照)

i) 対稱の要素……3回対稱軸1ヶ, 副対稱軸3ヶある。対稱点はない。

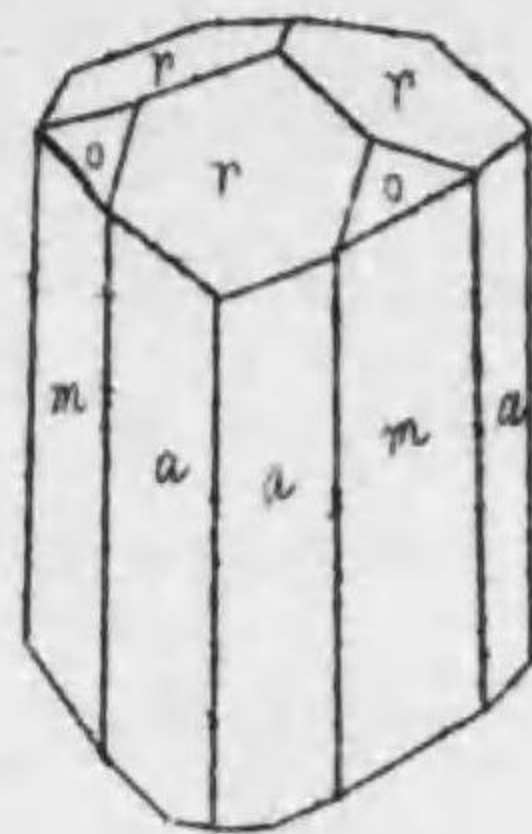
ii) 本晶族の鉱物……次の1種ある。(343~344 図)。

1) 電気石 *Tourmaline*…… $(NaLiK)_6(mgFeCa)_3(AlCnFe)_2B_2SiO_3$

(343)



(344)



記号解……r = 正菱面体 $(10\bar{1}1)$ の面, o = 第一六方柱 $(02\bar{2}1)$ の面,

t = 正六方偏三角面体 $(21\bar{3}1)$ の面

m = 第一六方柱 $(01\bar{1}0)$ の面

a = 第二六方柱 $(11\bar{2}0)$ の面

(IX) 偏形四半面像晶族 *Trapezohedral, Tetartrahedral class* (345~365 図参照)

i) 総説

1) 対稱の要素 対稱面は1ヶも無く, 上下軸の方向にある1ヶの3回対稱軸と側軸の方向にある3ヶの2回対稱軸を有するのみである。

2) 完面像よりの誘導法 345, 348, 353, 356 図の如く夫々の完面像に菱形半面像の誘導法と偏形半面像の誘導法を同時に施せば本晶族の四半面像を生ずる。

ii) 單形各説 次の5種ありて概各左右2形を有し,

(1) は更に正負に別れ, (5) は正負の2形あるのみ。
 1) 三角偏方体 *Trigonal trapezohedron* (345~347図参照)。

構成……345図の如く複六方錐 (mP_n) に上述の方法を施せば4ヶの三角偏方体を生ずる, 是は346~447図の如く不等辺四角形の錐面6ヶより成立する閉形である。本形は後述し3) 第二三角錐[†] (354~355図) の上下が互に右か左に捻れた様な形を有し, 下錐に対し上錐を上より見て左廻しに捻った形が左形 (347図) で左水晶 (361図) の上下両極に現はれる。之に対し右廻しに捻った形を右形 (346図) と稱し, 右水晶 (362図) の上下両極に現れる錐面である。

(345) 複方錐



(346) 右三角偏方体



(347) 左三角偏方体



軸率・記号……N.氏……正負, 右 $\pm \frac{mP_n}{4} r$, M.氏……

正右 $K\tau\{k\bar{i}h\ell\}$, 負右 $K\tau\{h\bar{k}i\ell\}$ 。N.氏……正負, 左 $\pm \frac{mP_n}{4} l$, M.氏……正左 $K\tau\{h\bar{i}k\ell\}$, 負左, $K\tau\{k\bar{h}i\ell\}$ 。

2) 第二複三角柱 *Ditrigonal prism of the second order* (348~352図参照)。

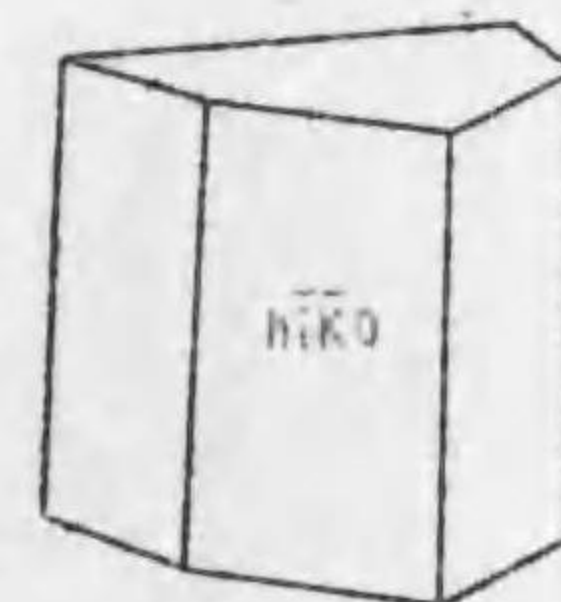
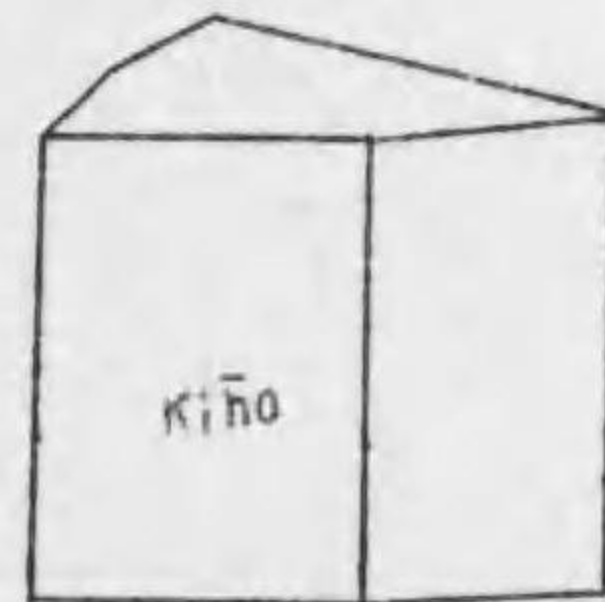
構成……348図の如く複六方柱 (∞P_n) に上述の方法を施せば正負2ヶの複三角柱を得られる。是は349~350図の如く6ヶの柱面より成る閉形で, 複六方柱 (∞P_n) の面数の半数面に当る。

軸率・記号……N.氏……右, $\frac{\infty P_n}{2} r$, ($\frac{\infty P_n}{4} r$); M.氏……右, $K\tau\{k\bar{i}h\ell\}$ 。N.氏……左, $\frac{\infty R_n}{2} l$, ($\frac{\infty P_n}{4} l$); M.氏……左, $K\tau\{h\bar{i}k\ell\}$ 。

(348)

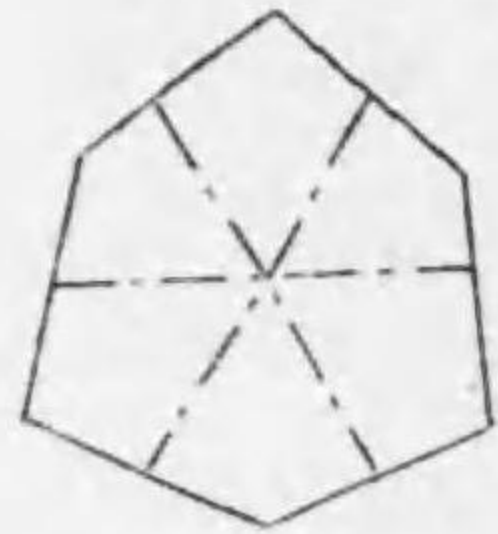


(349)

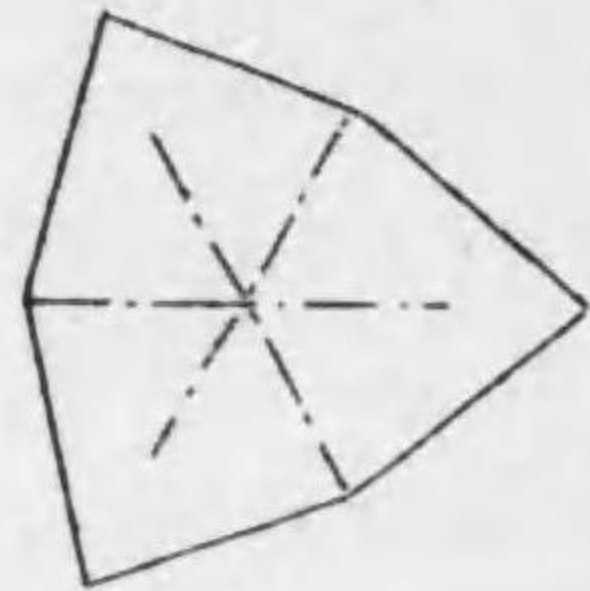


(350)

(351) 第一複三角柱の横断面



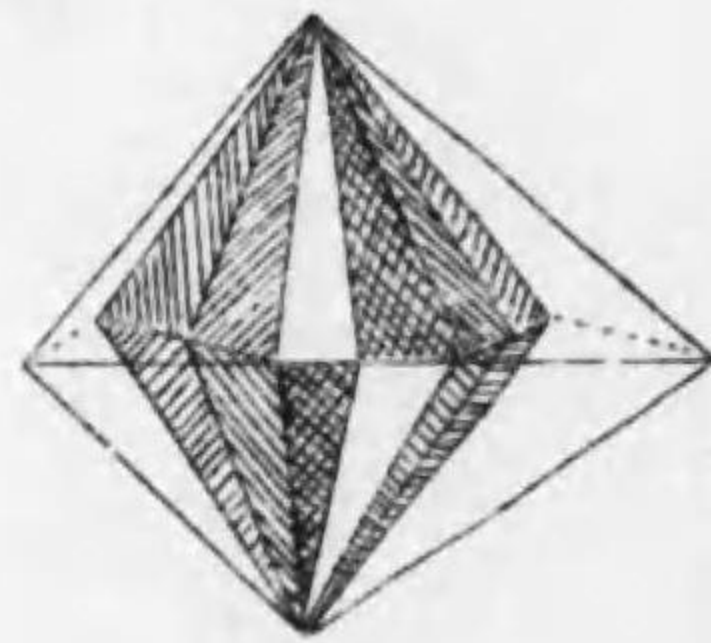
(352) 第二複三角柱の横断面



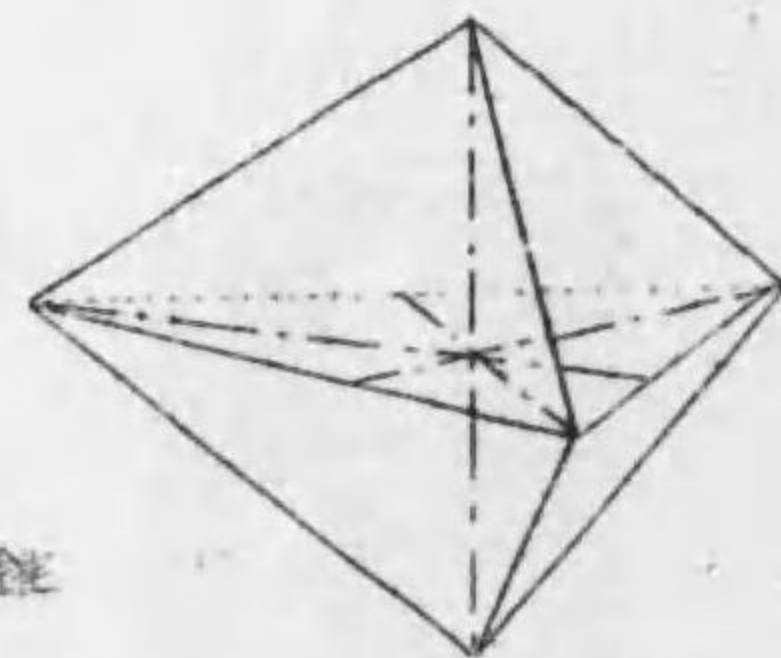
(351) 及 (352) 図の説明：—此両図は第一複三角柱 (334~335 図参照) 及第二複三角柱 (349~350 図) の側軸に対する関係及其外形を示せるもので、共に其側軸面に於ける横断面である。

3) 第二三角錐 *Trigonal pyramid of the second order* (353~355 図参照)。

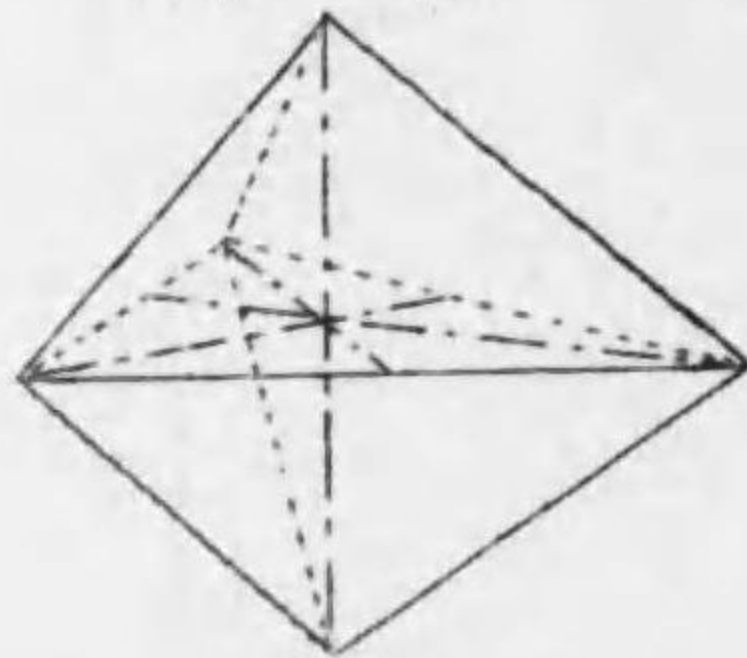
(353) 誘導体



(354) 右第二三角錐



(355) 左第二三角錐



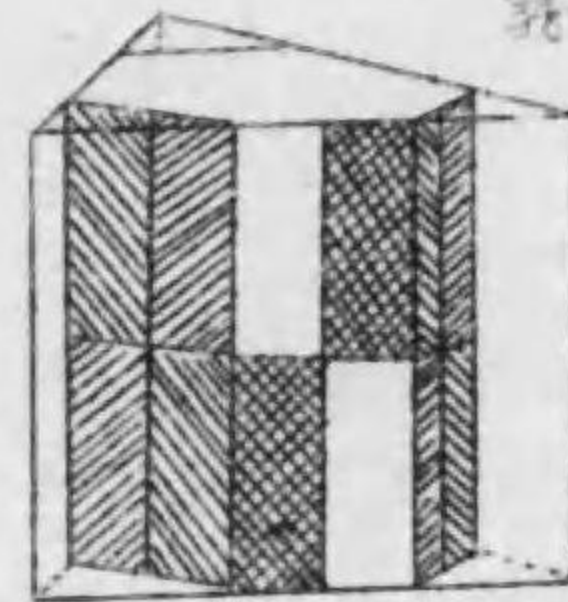
構成——353 図の如く第二六方錐 (mP_2) に上述の方法を施せば右形 (349 図) 及左形 (350 図) 2 々の第二三角錐を得らるる、本形は不正三角形の 6 面より成る閉形である。

軸率記号……N.氏……右形, $\frac{mP_2}{2} r$, 左形, $\frac{mP_2}{2} l$;

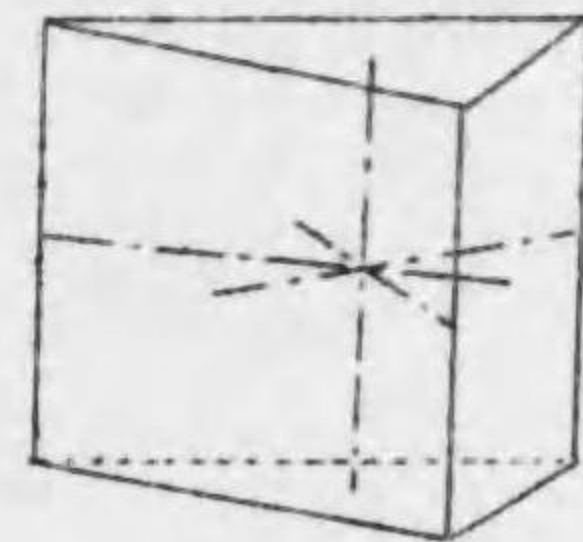
M.氏……右形, $K\tau\{KK\bar{h}l\}$, 左形, $K\tau\{h\bar{K}Rl\}$ 。

4) 第二三角柱 *Trigonal prism of the second order* (356~358 図参照)

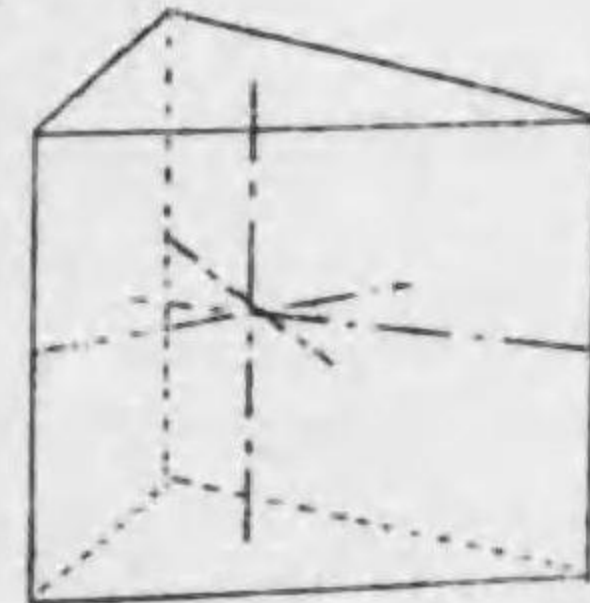
(356) 誘導体



(357) 右第二三角柱



(358) 左第二三角柱



構成——356 図の如く第二六方柱 (∞P_2) に同様の方法を施せば右形 (357 図) 及左形 (358 図) 2 々の第二三角柱を得らるる。本形は 3 々の柱面より成る閉形である。

軸率記号……N.氏……右形 $\frac{\infty P_2}{2} r$, 左形 $\frac{\infty P_2}{2} l$;

M.氏……右形 $K\tau\{11\bar{2}0\}$, 左形 $K\tau\{2\bar{1}\bar{1}0\}$.

5) 菱面体 (一名……斜方六面体) *Rombohedron* 之は既 (VI) の (2) に説明した。

構成……第一六方錐 (mP) に 4) と同様の方法を施せば菱面体を生ずる。

軸率記号……M.氏……正, mR ; 負, $-mR$ 。M.氏……正, $K\tau\{h0\bar{h}l\}$, 負, $K\tau\{0h\bar{h}l\}$ 。

iii) 聚形 (359~365 図) 本品族の面を有する聚形の鉱物は次の如くである。

1) 記号解……次の記号解と照應し、359~365 図の聚形の各面を調査せよ。

C = 底面 (OP)

r = 正菱面体 ($10\bar{1}1$) の面

O = 第一六方錐 ($02\bar{2}1$) の面

m = 第一六方柱 ($01\bar{1}0$) の面

a = 第二六方柱 ($11\bar{2}0$) の面

Z = 負菱面体 ($-mR$) ($01\bar{1}1$) の面

S = 三角錐 ($\frac{2P_2}{4}$) の面

Z = $\begin{cases} \text{左水晶} = \text{左正三角偏方体の面} \\ \text{右水晶} = \text{右正三角偏方体の面} \end{cases}$ ($\frac{2P_2}{4}$) の面

z = 左水晶 ($6\bar{1}\bar{5}1$)

z = 右水晶 ($516\bar{1}$)

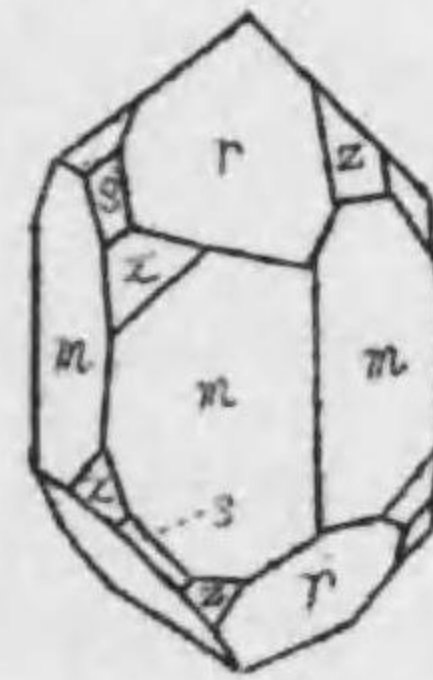
(359) 石英



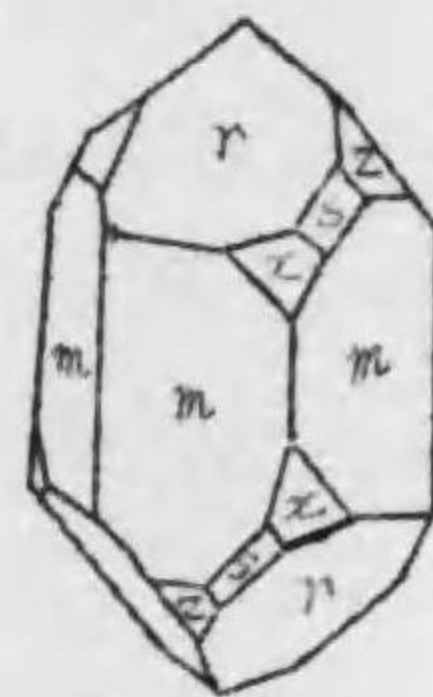
(360) 石英



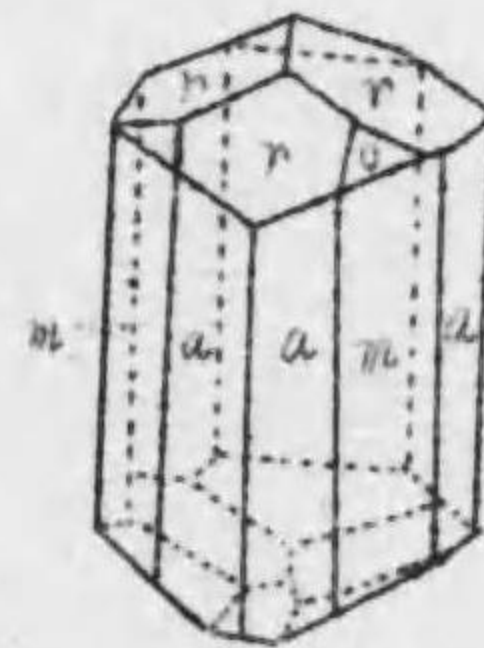
(361) 左水晶



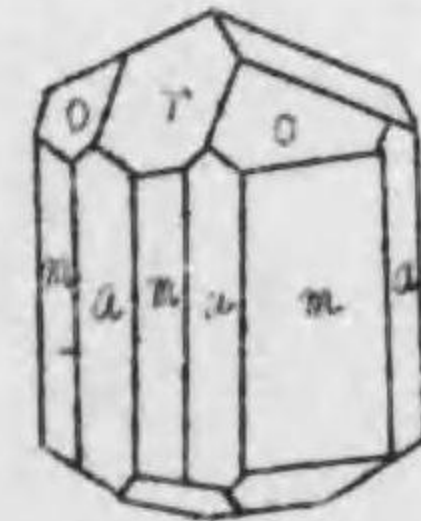
(362) 石水晶



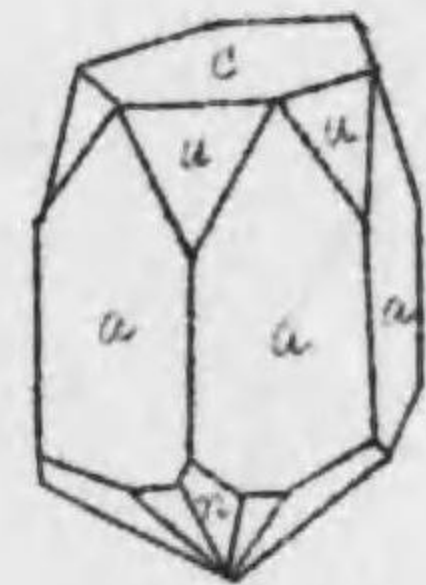
(363) 電氣石



(364) 電氣石



(365) Δ



2) 聚形の鉱物 此晶族に結晶する鉱物は次の如くである。

1. 石英 *Quartz*…… SiO_2 (359~360 図)

2. 水晶 *Rock Crystal* ... SiO_2 (361~362 図)

3. 電気石 *Tourmaline* ... (363~365 図)

4. 辰砂 *Cinnabar* ... HgS 台湾, 金瓜石;
日高国, 様似; 徳島縣, 水井。

(X) 菱形四面像晶族 *Rhombohedral tetartohedral class*. (366~371 図参照)

i) 総説

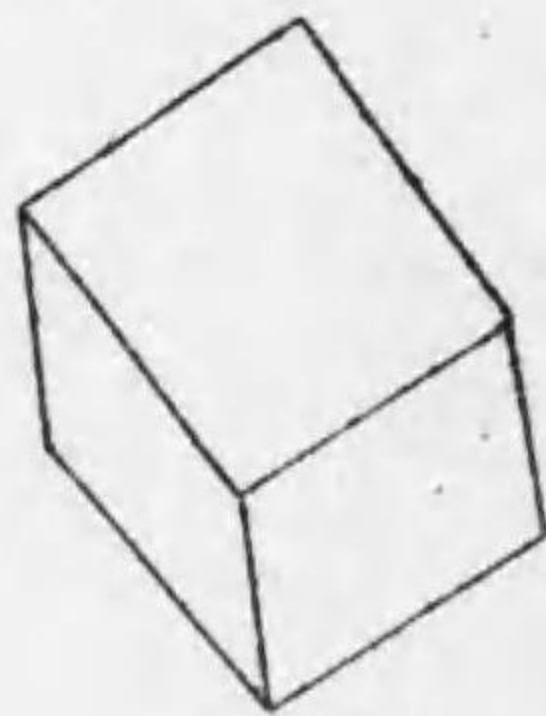
1) 対稱の要素 対稱面がない, 上下軸の方向にある
1ヶの3回対稱軸と対稱点を有するのみ。

2) 完面像よりの誘導法 完面像に錐形四面像と菱形四面像とを得る方法を同時に施せば之を導き得られる。

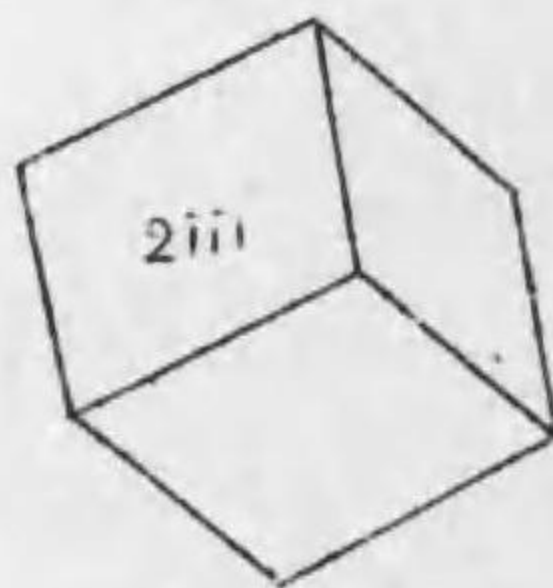
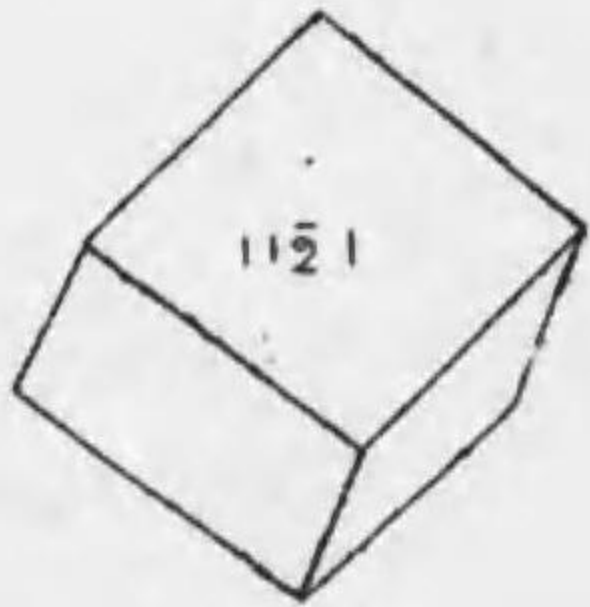
ii) 單形各説 次の3種ありて(1)(2)は正角四面, (3)は正・角・左・右の4形を有する(366~370 図)。

1) 第一菱面体 *Rhombohedron of the first order* (366 図)。

(366) 第一菱面体



(367)



(368)

構成 ... 第六方錐 (mP) に上述の方法を施せば生ずる, 本形は366 図の如く菱形四面体である。

軸率・記号 ... N.氏 ... $\pm \frac{mP}{4} x + \frac{mP}{2}, -\frac{mP}{2}$; M.氏 ... 正, $\pi K \{h0\bar{h}l\}$, 負, $\pi K \{0h\bar{h}l\}$ 。

2) 第二菱面体 *Rhombohedron of the first order* (367~368 図)。

構成 ... 第二六方錐 (mP_2) に全様の方法を施せば左右2形を生ずる。

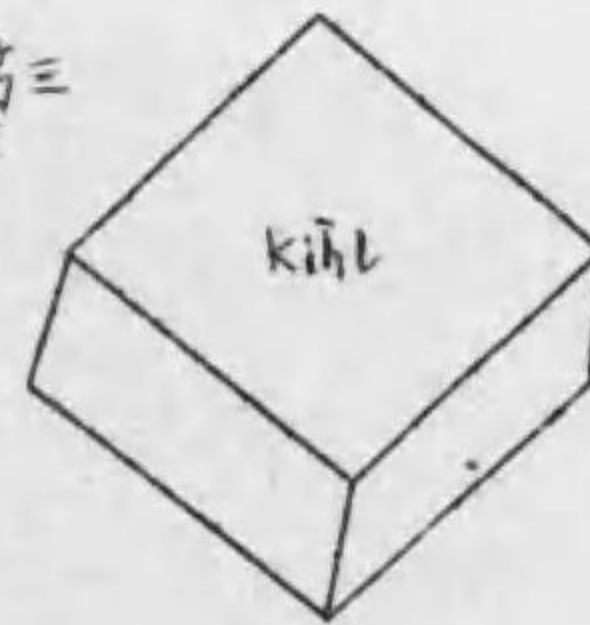
軸率・記号 ... N.氏 ... $\frac{mP_2}{4} r, l$; 又 $\frac{mP_2}{2} r, \frac{mP_2}{2} l$;
M.氏 ... 右, $K\pi \{K\bar{K}hl\}$ (但し $2K=h$), 左, $K\pi \{h\bar{K}Kl\}$

3) 第三菱面体 *Rhombohedron of the third order* (369~370 図)

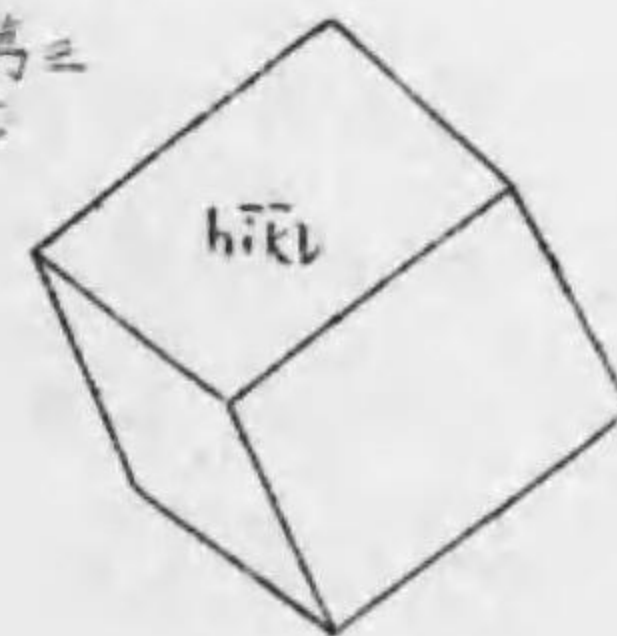
構成 ... 複六方錐に上述の方法を施せば2対4形の第三菱面体を生ずる。

軸率・記号 ... 次の4形ある。

(369)
正右-第三菱面体



(370)
正左-第三菱面体



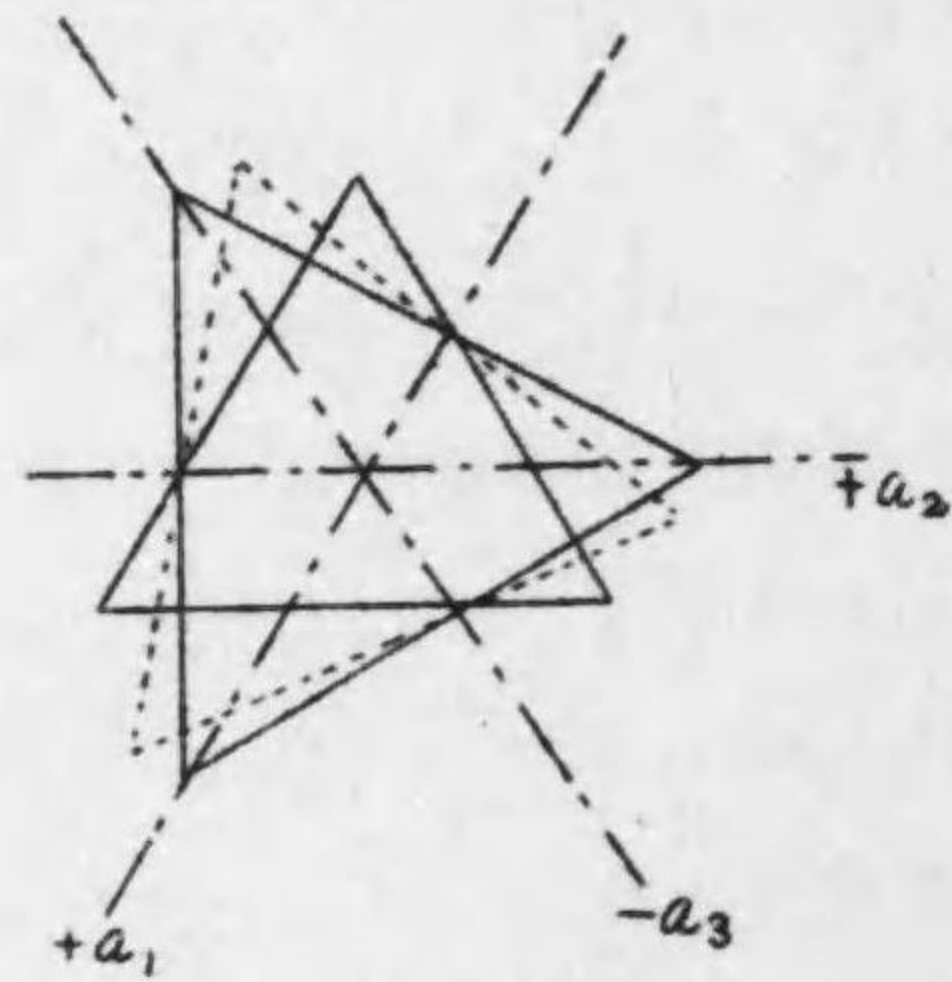
1. 正右-第三菱面体 N.氏 ... $+\frac{mP_3}{4} r$, M.氏 ... $K\pi \{K\bar{h}l\}$

2. 正左-第三菱面体 N.氏..... $+\frac{mDn}{4}l$, M.氏.....
 $K\pi \{h\bar{i}\bar{k}l\}$

3. 頁右-第三菱面体 N.氏..... $-\frac{mDn}{4}r$, M.氏..... $K\pi$
 $\{\bar{i}h\bar{k}l\}$

4. 頁左-第三菱面体 N.氏..... $-\frac{mDn}{4}l$, M.氏..... $K\pi$
 $\{i\bar{k}h\bar{l}\}$

(371)



371図説明:— 371図は第一, 第二, 第三の三種の菱面体の関係的位置を示す図である。

此晶族に結晶する鉱物は

(I) 翠銅鉱 *Diopside* $CuSiO_3 \cdot H_2O$

(XI) 三角四半面像晶族 *Trigonal tetartohedral class*. 主対稱面1ヶ, 3回対稱軸1ヶを有するのみ, 対稱点がない。

(XII) 三角四半面異極像晶族 *Trigonal tetartohedral hemimorphic class*. 3回対稱軸1ヶを有するのみである。

正 誤 表

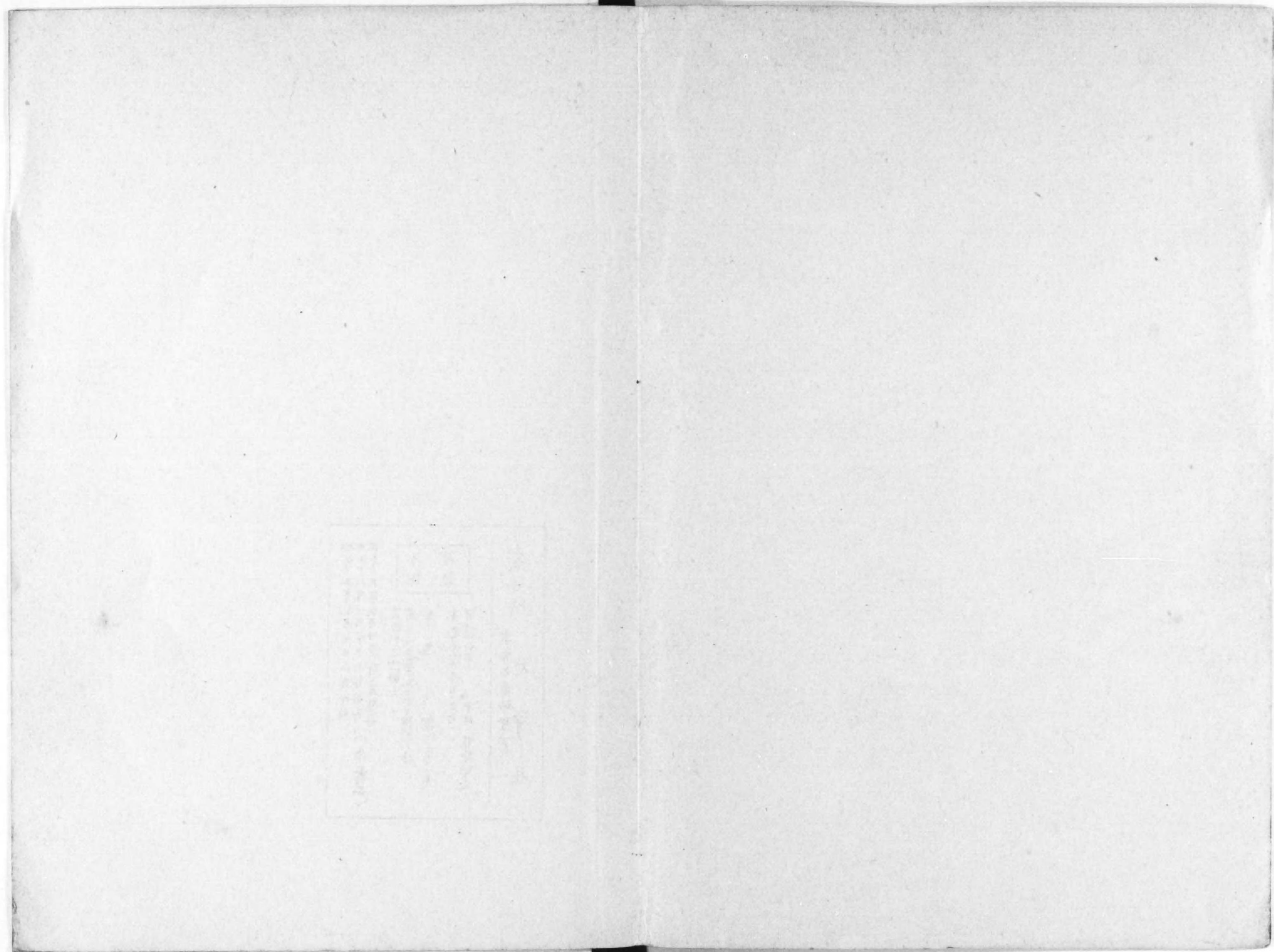
頁	行	誤	正
24	12	=0.68994.....:1	=0.68994:1

昭和十五年三月六日初版印刷
昭和十五年三月十日初版發行 (非賣品)
昭和十五年四月廿五日訂正再版發行

不 許
複 製

芝田芝公園六
共立女子商業專門學校
著 者 小 泉 秀 夫
本館巴莫砂町三六一
發行印刷所 大洋社 野村松次

發行所 本館巴莫砂町三六一
大 洋 社



401
432

終